

退任のご挨拶



31年間本当に
ありがとうございました。

名誉院長(前院長) 小松本 悟

令和3年3月末日をもって院長を退任いたしました。大過なく職責を果たすことができましたのも、ひとえに皆様のご厚情とご指導のたまものと心より感謝を申し上げます。

平成2年、米国ペンシルバニア大学脳血管研究所での留学から帰ってきた私は、神経内科部長として足利赤十字病院に着任しました。初めのうちはすぐに東京へ戻るものと思っていましたが、平成6年には副院長になり、病院の経営状況や将来を真剣に考えるようになりました。足利の地に根を降ろし、足利赤十字病院と地域医療の発展に尽力しようと決意したのは平成13年頃のことです。

当時の病院は勤務医不足に陥り、医師数が60人台になっていました。私も常時20人以上の入院患者を抱え、大変厳しい日々であったと記憶しています。この頃、何度も同じ夢を見てうなされることがありました。場面は映画「千と千尋の神隠し」の一コマで、油屋である足利日赤から内科医師を始め多くの職員が無言で行列をなして出てきます。私は「どこへ行くのか?患者さんはどうするのか?」と皆に尋ねるのですが、全員無言のまま出ていってしまうのです。その後、なんとか医師を増員することができましたが、副院長時代にどん底の経験をしたことはその後の病院経営の糧となっています。

令和3年4月1日 小松本 悟

平成20年に院長に就任した後も様々な出来事がありましたが、最も印象深いのは病院の全面移転です。足利赤十字病院は昭和24年7月1日に初代院長小野康平先生によって創設され、以後60年の長きに渡り両崖山の麓で両毛地域の医療を支えて参りました。病院創設の地を離れることについては院内外から多くの反対がありましたが、建物の老朽化や敷地の狭隘化など当時の病院が抱えるハード面の問題は深刻な状況にあり、病院や地域医療の未来を考えると全面移転以外に選択肢はありませんでした。

平成23年7月1日、62回目の創立記念日に新足利赤十字病院は開院しました。一般病床全室個室に挑戦した新病院は、移転から10年が経過した現在も高い病床稼働率を維持し、順調に黒字経営を続けております。さらに、建物や設備は“次世代型グリーンホスピタル”として各方面で高く評価され、オランダ・ハーグで開催されたIFHE International Building Award 2016(IFHE国際医療福祉建築賞2016)での最優秀賞を初め、国内外において様々な賞を頂くことができました。失敗したら自刃して詫びようとも考えた一大事業ではありましたが、当院が大きな発展を遂げる節目に携わることができて大変嬉しく思っています。ご尽力いただいた全ての方に改めて御礼を申し上げます。

足利赤十字病院の歌に「緑色濃き 両崖の山の麓に」という節があります。現在は渡良瀬川の辺に移転したため3番を作ったらどうかというお話がありましたが、私は反対です。両崖山の麓で創設され、小野院長の作られた歴史と偉業こそが、足利赤十字病院の出発点であることを語り継いでほしいと思います。

私は、初代小野院長の後をただ継いだ一院長にすぎず、小野院長の偉業には及ぶことは到底出来ていません。

足利での31年間は、立ち止まらず、ただひたすらに前だけを見て走り続けて参りました。退任を機に改めて後ろを振り返ってみると、様々な思い出が一気に蘇ります。その中には良い思い出と同じくらい反省すべき思い出も多く、たくさんの方に見守られ、支えられて今の私があるということを痛感せずにはいられません。退任後は名誉院長として、今度は一番後ろから足利赤十字病院を支えていく所存です。

当院は、室久俊光新院長のもとで新たな一步を踏み出して参ります。地域の皆様や患者の皆様、職員と共に『足利赤十字病院にかかってよかった 職員ひとりひとりが勤めてよかった』と言える病院を創り上げてくれるものと信じております。新体制となりました足利赤十字病院に今後とも一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、長きに渡り支えてくださった地域の皆さまならびに関係者の皆さまに心から感謝と御礼を申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。31年間本当にありがとうございました。

就任のご挨拶



両毛地域の医療を支える
中核病院として励んで参ります。

院長 室久 俊光

この度、足利赤十字病院院長を拝命致しました。私にとって身に余る重責ではありますが地域医療、病院に貢献できるよう精一杯の努力をする所存です。

私は獨協医科大学を昭和61年に卒業し直ちに同大学消化器内科に入局、消化器内科学、特に肝臓病について研鑽を積んで参りました。肝臓病の中でもウイルス肝炎や肝硬変、劇症肝炎をふくむ急性肝不全、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎の診断、治療を専門にしておりました。現在は主に消化器領域の内科診療を担当し、また消化器内視鏡指導医として若手内視鏡医の育成にも携わっています。

足利赤十字病院には平成31年1月1日に内科部長とし

て赴任し同年4月1日からは副院長として病院運営に携わって参りました。その間、前院長である小松本悟先生から病院経営についてご指導を頂き勉強する機会を得ることができました。

これらの経験を生かして、足利赤十字病院が患者さまからかかってよかったと思われ、さらに地域で愛され信頼される病院となるよう、また、職員のひとりひとりが生き生きと充実して業務に携われるよう努めて参ります。地域の皆さま、患者の皆さま、そして病院職員の皆さまにはどうか今後とも一層のご指導、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い致します。

